

平和に生きる権利は 国境を超える

世界最大の「天井のない監獄」
ガザの人道危機が進む今、パレスチナとアフガニスタンの支援活動続ける医師と法学者が
現地訪問の経験から“平和的生存権”と“法の支配”と日本人の私たちがなすべきことを問う

室蘭工業大学大学院教授
清末 愛砂 さん



室蘭工業大学大学院教授。1972年生まれ。山口県出身。専門は憲法学（特に24条の平和主義）、アフガニスタンのジェンダーに基づく暴力。学生時代に民主化運動をしているミャンマー（ビルマ）の学生支援などにかかわったほか、パレスチナの非暴力抵抗運動「国際連帯運動」にも参加。2012年からアフガニスタンのフェミニスト団体RAWAとの連帯活動にかかわり、現在、「RAWAと連帯する会」共同代表。パレスチナ医療奉仕団メンバー。

北海道パレスチナ医療奉仕団団長
猫塚 義夫 さん



医師。札幌生まれ。1973年に札幌医科大学卒業後、北海道勤労者医療協会に入職。以後、米国留学を含め脊椎外科と関節節外科を中心とする整形外科医として診療と臨床研究を進めてきた。同時に学生時代から抱えてきた社会進歩への志を実践した。障害者へのボランティア活動に始まり、「医療9条の会・北海道」幹事長（現、共同代表）となりつつ、2010年に「北海道パレスチナ医療奉仕団」を立ち上げ、現在に至る。



11月27日発売！
会場にて販売します
（売り切れ次第終了）

2023年

12月19日 火

入場無料

(17:30開場)
18:00～

自治労会館 4階 ホール

(札幌市北区北6条西7丁目)